

サラーシ海上氏来たる!

—インド音楽のゆらべ—

日時： 2013年1月30日(水)
16:00~18:00

場所： 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
関西学院会館内「翼の間」

2012年度 第7回先端社会研究所定期研究会
共同研究 「南アジア／インド班」 研究会第3回

日時：2013年1月30日（水）16:00～18:00

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

関西学院会館内「翼の間」

※当日は入試準備のためキャンパス正門からは入構できない可能性があります。正門から入らずに、正門に向かって右手にある関西学院会館まで直接お越しください。

報告者：サラーム海上^{うながみ}氏（よろずエキゾ風物ライター／DJ）

題目：南アジア系音楽家のクラブミュージックにおける
〈南アジア性〉と〈アンダーグラウンド性〉の変化

【概要】

エイジアンアンダーグラウンドとは、イギリスやアメリカで生まれ育った南アジア系移民の子孫の音楽家たちが、インド本国の大衆音楽のニーズに迎合することなく、自分たちの感覚を元に音楽を表現したムーブメント。1980年代末から2000年代初頭まで、電子音楽機材の普及と当時の音楽ソフト業界の後押しもあいまって世界的に注目された。2000年代後半になると、音楽ソフト業界の衰退、および2008年の世界金融危機により、欧米諸国で活動の場を失った多くの南アジア系音楽家たちは経済が好調なインド本国に拠点を移した。

そして、エイジアンアンダーグラウンドは今も膨張し続けるインドの音楽シーンに吸収され、その名をとどめるのみになった。しかし、現在のインド大衆音楽に与えた影響は大きい。著書『プラネットインディア インド・エキゾ音楽紀行』（河出書房新社）などを通じて、インド亜大陸の様々な音楽を調査取材してきた音楽評論家／DJのサラーム海上（うながみ）氏を招いて、エイジアンアンダーグラウンドの四半世紀を探る。

【報告者紹介】

1967年生、群馬県高崎市出身。明治大学政経学部卒。伝統音楽とエレクトロニック音楽の出会いをキーワードに、中近東やインドを定期的に旅し、現地の音楽シーンをフィールドワークし続けている。その他、活動領域はラジオやクラブのDJ、料理研究、海外ツアー企画など、多岐にわたる。著書に『21世紀中東音楽ジャーナル』（アルテスパブリッシング）、『エキゾ音楽超特急 完全版』（文化放送メディアブリッジ）、『PLANET INDIA インド・エキゾ音楽紀行』（河出書房新社）、共著に『アラブ・ミュージック その深遠なる魅力に迫る』（東京堂出版）ほか。朝日カルチャーセンター新宿にて、通年講座「ワールド音楽」を開催中。NHK FM「音楽遊覧飛行 エイジアンクルーズ」のナビゲーターを務める。

一般公開
入場無料